〒954-0052
見附市学校町２－７－９
電話／Fax　0258-62-2343
E-mailmrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和５年９月２２日NO.６

本明町　ブドウ畑

収穫の時期を迎えたブドウ

『注文に時間がかかるカフェ』～挑戦，新たな夢へ～

嘱託指導主事　倉上　美津枝

吃音(きつおん)のある若者たちが，スタッフとして接客する『注文に時間がかかるカフェ』が全国各地で随時開かれています。今，私が行ってみたいカフェの一つです。

スタッフが着用しているマスクには，「話し終わるまで待ってください」「言えなそうだったら助けてください」のように，自分が望む吃音への対応が書いてあるそうです。このカフェを企画した奥村安莉沙さんは，自身も吃音当事者です。「吃音だからとやりたい仕事を諦めてしまうのは，周囲の無理解による心の傷が原因」と考え，この『カフェ』を立ち上げました。

吃音とは，話し言葉が滑らかに出ない発話障害の一つです。発症の要因などは様々で，研究もかなり進められています。多くは幼児期に発症し，対応を間違えると改善が難しくなります。

吃音が出た時に笑われたり，「ゆっくり話してごらん」と注意や指摘を受けたりの経験を重ねると，自分の話し方に対して「嫌悪感」「不安」を感じ，やがて話すことを「恐れ」るようになります。話すときの不安や恐れによって，症状が悪化することがあります。思春期になると，社会不安障害を併発しやすく，学校生活上の様々な問題を引き起こしかねないため，予防をすることが必要です。

「話すことが楽しいと思える場」を増やすことで，吃音症状が改善していくことがあります。吃音があっても自信をもって話すこと，楽しく会話できること，これは本人の努力だけでなく，周囲の理解が大切です。

さて，学校で多くの辛い体験をしてきたスタッフから，教職員に向けたメッセージです。

「吃音支援の在り方は一人一人違うので，一番はその子どもにあった接し方をしてほしい。同時に，配慮に不満を抱く子どもがいるので，先生には，本人と周囲とのバランスも注意深く見守ってほしい」

学級や学年に吃音と思われるお子さんがいたら，まずは本人にどんな配慮が必要かを聞いてほしいと思います。例えば，九九の暗唱，音読発表，自己紹介など。また，周囲の子どもへ吃音のことを伝えておくことも効果的です。

冒頭の『カフェ』は，子ども時代から辛い体験をして吃音に悩みを抱える若者たちが，カフェへの挑戦を通して自信をつかみ，新たな夢に向かって歩み出すきっかけになっています。

相手を理解しようとする心と，正しい知識をもつことによって，誠実な対応のできる子どもが増えていくと思われます。この『カフェ』のように，挑戦し自分の夢に向かって歩むことができる場や環境が広がっていくことを願っています。

巻頭写真に寄せて　＝本明町で「実りの秋」をいくつも感じた…＝

◇本明町でブドウが栽培をされていることは以前から知っていたが，畑の場所は分からなかった。農林創生課に尋ねたら「桜明橋を渡り…本明町に入り右折して…ブドウ畑だ」と，地図で丁寧に教えてくれた。ところが，私は「ブドウ畑は山の傾斜地」の思い込みで，栃鉄の線路跡の山道を行ったり来たりしていたら，民家の前にブドウ畑らしきもの(写真①)を見つけた。これはキウイであるが，たたわに実ったキウイに収穫の秋を感じた。
◇書いて頂いた地図を見直し，ようやくブドウ畑に行くことができたが，またここで困った。ブドウ畑は何か所もあるが，どの畑も風や鳥獣よけのために，周囲を青い網(写真②)で覆っている。真下からの写真を撮りたいと思ったが，入れずに網の隙間から辛うじて撮ったのが巻頭写真である。ここでは写真の巨峰の他，ピオーネやシャインマスカット等が栽培されている。また，隣接畑で「今，見附で売り出し中」のニラが，何列(畝)も栽培(写真③)をされていた。
◇さて，新潟県地域整備部発行パンフレット『刈谷田川遊水地』に，平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨で湛水した写真が載っている。遊水地は『H16. 7. 13 水害』を教訓に，洪水対策として作られたもので大小６池からなる。この中で本明町地域のＢ池が一番大きく，パンフレットには湖のようになっている。この場所が写真④の水田地域である。洪水が起こらなければ，このようにコンバインが黄金色の稲を収穫する。本明町で，実りの秋をいくつも感じることができた。

キウイ　①

周囲を青い網で覆う②

ニラの畑　③

稲の刈り入れ　④

コラム　“「学校を大好き」にさせる自立活動の充実”

◇９月に入り，授業で先生方と学び合える「師がく」が再開しました。担当校のＩ小学校は，７日(木)の特別支援学級担任Ｓ先生の自立活動「見る・聞く・話す修行でパワーアップ！」の授業から始まりました。子ども同士で，対話や関わりが生まれる良い授業でした。
　このＩ小学校は，特別支援学級７学級すべてで，自立活動の授業公開を行っています。自立活動は，特別支援教育の土台，中核となる指導です。ぜひ，多くの学校の特別支援学級でも，自立活動の公開に挑戦して欲しいと思います。
◇８月２３日に三南地区「特別支援教育講演会」が加茂市でありました。講師は４年前「見附市特別支援教育研修会」で，指導を頂いた植草学園短期大学の佐藤愼二先生です。佐藤先生は特別支援学校や小学校の通級指導教室に勤務された後，大学の先生になりました。ですから，実践に裏打ちされた理論で，お話をされるので分かり易い話です。今回は「今日からできる！特別支援教育の授業づくり」の演題で，『子どもの本物の学びは教科の枠を悠々と越えて，リアルな生活に肉薄する！』という指導を，自立活動の実践で教えて頂きました。『自立活動で心身の調和的発達の基盤を培う』大切さを学びました。また，佐藤先生は指導の中で，ご自身のお子さんの話をされました。「重い障害があるが，学校(特別支援学校)が大好きです。高等部卒業後は，民間の清掃会社に勤め，毎日電車で働きに行っています」の話は，胸が熱くなりました。卒業した学校は母校です。「母のお腹は居心地が良くても二度と戻れない所。学校(母校)も母のお腹のように居心地の良い所，大好きな場所にして欲しい。」と話されました。充実した自立活動の授業を行うことで，子どもたちを「学校を大好き」にさせて欲しいです。(こ)

４時から夢塾　　「子ども・保護者の話を聞こう」を学ぶ

第７回は８月３０日(水)に，長岡市立青葉台小学校の古田島 真樹 校長先生から「困り感のある子どもと好ましい関係を築く関わり方」を学んだ。

１　承認のメッセージをいっぱい出していくこと

(1)承認とは…相手の存在を認めること(認めること。感謝。お礼‥)

⇒ 言葉に出して伝えること（・良い成果が出たときほめる　・努力の過程を承認する）

(2)ほめて育てる ①子どもの良さの発見 ②事実や行動をほめる ③質問して成長を期待する

⇒ 自己イメージが低い子どもに対して，徹底的に承認をすることが大切である。

２　初期対応で必要な関係づくりを助けるカウンセリングスキル

(1)スキルが心に余裕を生みます　座る位置で関係が⇒座席の工夫

(2)傾聴…①あいづち ②うなずき ③繰り返し ④感情の繰り返し

(3)教職員の仕事　▲指導・指示・叱責　〇思い・願い・一緒に

(4)解決を考えるな(治そうとするな)，分かろうとせよ。謙虚な態度。

⇒ 解決だけを考えない。休み時間等で子どもの気持ちを受け止める。

〇気になる子…一斉指導で動けない子　授業中立ち歩く子　暴言を言う子　いつも一人でいる子　自分の気持ちを話さない子　等

(5)学校の教育課題…学力向上・不登校・問題行動 ⇒ これらは関連している。

〇中学生の不登校原因第１位は，学校は「生徒の無気力」。生徒は「教職員との関係」。

⇒ このことを教員は真摯に受け止める必要がある。

３　演習１　傾聴の技法を使ってみよう…【話し手】楽しかったことを自由に話してください。

〇話を聞く際の４つの態度

(1)No But　（ 違う…こうするんだ… ）　(2)Yes But　（ なるほど…でもね… ）

(3)No And　（ 違う…いいところもあるけどね…）　(4)Yes And　（ なるほど…それで… ）

演習２　Yes And で話を聞こう　児童館を利用している子どもが，先生に宿題をしたくない。

演習３　why なぜの繰り返し　ロールプレイ　悪口を言うＴ夫になぜ，どうしての質問。

⇒ ５回言ってもらう…答えは自分の中(潜在意識)に持っている。考えるために質問する。

演習４　子どもの気持ちを受け止める　Ｃ子がＴ夫にいじめられていると訴えてきた。

⇒ 傾聴(首を振って聴く)…「そうだよね」と聴いてもらえて嬉しかった。

＜参加者の声＞・子どもとの関わり方を具体的な演習で振り返ることができた。「ことん」と落ちる言葉が多くあった。特に「３分話を聞けば，子どもたちは満足できる」は大変響いた。

・改めて自分を振り返る良い機会になった。わかっていても言ってしまうこともあり，自分の気持ちに余裕を持つことが大事だと思った。穏やかな気持ちで子どもに関わっていきたい。

・教師側の心構えや姿勢，具体的なスキルで分かり易かった。活用へのイメージが持てた。

・子どもへのアプローチを再考できた。寄り添うことの大切さ，そして，本質を教えて頂いた。

・演習が多くあり良かった。参加型の研修は，受講者も思考して表現するので充実感があった。

9月

科学教育部

≪今月の１枚≫　ヤマトシジミ
葛巻１にて

【科学研究発表会～探究と試行～】

各校の先生方からご指導いただき，今年度も見附市児童生徒科学研究発表会を開催することができます。ありがとうございました。「小学校１・２年生部会８作品」「小学校３・５年生部会８作品」「小学校４・６年生部会８作品」「中学校 １０作品」の応募がありました。

「なぜ？どうして？」という疑問に思ったことを探究することが，研究の始まりです。そして，研究は試行錯誤の繰り返しです。他の生徒の探究と試行から学び，科学を探究する心を育て，さらに，自分の力を高める場となることを願っています。

「見附市児童生徒科学研究発表会」 会　場：見附市中央公民館	9月28日(木) 14:05～16:20	小学校１・２年生 小学校３・５年生 小学校４・６年生 中学校	８作品 ８作品 ８作品 １０作品

【夏休み作品展～工夫と努力～】

夏休み作品展を，９月30日・10月１日に「ネーブルみつけ」を会場に開催します。今年は小学校157作品，中学校４１作品の計１98作品が集まりました。

ものづくりや観察記録など，工夫を重ねた作品が多くあります。自分の作品作りに没頭したり，努力したりすることは，かけがえのない時間だったと思います。児童・生徒にとって，他校の児童・生徒の作品は刺激になります。ぜひ，「ネーブルみつけ」に足を運んで欲しいです。多くの方々に観覧いただけますよう声がけをお願いします。

「見附市児童生徒夏休み作品展」 会　場：ネーブルみつけ	９月３０日（土） １０月　１日（日） 両日とも9:30～16:30	市内 198作品 小学校１５７作品 中学校　４１作品

【「今月の一枚」ヤマトシジミの特徴】

ヤマトシジミは幼虫の餌となるカタバミという植物が生育できる環境であれば，どこでも繁殖できるという特徴を持つ事から日本で一番，生息数が多い蝶なのではないかと言われている種類です。ヤマトシジミは飛ぶ力が弱く，あまり素早く移動する事はできませんが，狭い環境でも十分に育つ事ができる為，道端や庭の花壇などにも生息する事ができます。

一説には，人が草刈りを行う事によって，ヤマトシジミが生育するには良い環境が作り上げられ，生息地域が広がったのではないかと考えられています。

参考文献　昆虫図鑑.https://konchu-zukan.info/yamatoshijimi.php,
(2023-09-19).